

連載

- 10 世界のキーパーソン
- 11 国内人情情報
- 27 Book Reviewing Globe
- 40 金融の世紀―黒木亮
- 42 大往生考
- 51 西風
- 59 交差点―読者の声・編集者の声



賛否があっても当然よい。問題は議論がないことだ。不治の難病患者に、自らの最期を決める権利を与えるかどうか。「自殺ほう助」した医師を袋叩きにするだけで、後は思考停止。成熟社会には程遠い。(110頁)

- 98 社会・文化●情報カプセル
- 100 鳥インフルが示す日本農業の「末路」―「千万羽」殺処分は人災
- 102 サイバー警察局「大手柄」の眉唾
- 104 コロナ「動物感染」に潜む難題―終わりなき「変異株出現」の原因
- 106 渡辺京二が問うた「真の保守」
- 108 ■土着思想家「その文業の足跡」
- 110 特捜部が「三浦瑠麗の夫」を狙う理由―太陽光の闇と「大樹総研」の存在
- 110 日本版のサンクチュアリ●シリーズ581
- 110 安楽死論議―幼稚な日本のタブー

- 88 皇室の風―岩井克己
- 90 日本の科学アラカルト
- 92 新・大学評判記
- 94 本に遇う―河谷史夫
- 96 をんな千一夜―石井妙子
- 114 マスコミ業界ばなし

3 連載(巻頭インタビュー)久米晃―自民党は決して安泰ではない

●特別リポート

世界「人口競争」の苛烈

―「中印逆転」が示す将来像

- 12 米共和党を攻撃し始めた「極右集団」―「予先はトランプ一家にも
- 14 英国が「西欧最貧国」に転落へ
- 16 EU首脳「愚かな権力闘争」―歪む「対中政策」に習近平の哄笑
- 18 WORLD●情報カプセル
- 22 欧州王室はいずれも多難―「ヘンリー」暴露本の「激震」が波及
- 24 中東が抱える「気候難民」の爆弾―急速に広がる「居住不能」地帯
- 28 クリミア奪還「ウクライナの強硬
- 30 ■米欧が恐れる「最悪シナリオ」
- 30 ロシア資源生産は「激減」の運命―「西側企業」撤退で技術の限界
- 32 イラン経済危機で「破滅」の凶兆―大弾圧が新たな「革命」か
- 34 北朝鮮「原子力潜水艦」建造の妄執
- 36 ■苦境のロシアが技術協力
- 36 台湾で「政権交代」が起きたなら
- 38 ■「親中」国民党が総統奪回の雲行き
- 38 連載(現代史の言霊)二月の出頭―「タンジエントポリ」汚職事件(一九九二年)

中国の極端な人口減少は、経済発展と膨張主義の継続を困難にしている。対するインドは人口が武器となる黄金時代。米国が踏ん張りを見せる中、日韓は主要国から脱落へ。世界秩序は転換点を迎える。(6頁)



防衛増税の前に国民の信を問う―と勇ましいが、自民党内は「年内の総選挙は無理」で衆目一致。肝心の支持率は、この先も回復の見込みがない。解散権を失った総理では、政権運営に迫りも出ない。(48頁)

- 44 政治●情報カプセル
- 46 地方選挙に見る「老衰ニッポン」―無投票だらけの名ばかり民主主義
- 48 岸田増税解散の虚勢
- 52 ■年内総選挙の線は消えた
- 52 連載(政界スキャンダル)岸田批判「菅義偉に再登板の内懐
- 54 二枚舌「萩生田光二」の正体
- 56 ■岸田後への密やかな野心
- 56 岸田「異次元の少子化対策」の欺瞞
- 58 ■効果なき制度でまた「国民負担増」
- 58 連載(罪深きはこの官僚)伊藤豊(金融庁監督局長)―三菱UFJに舐められた「銀行の番人」

- 60 伊藤忠と丸紅「再統合」はあるか
- 62 ■百五十周年「紅忠」広告の波紋
- 64 著名投資家たちの「頭の中」―混沌の相場を読むヒント
- 64 東京ガスの果てなき「内部抗争」
- 67 ■経営迷走「新社長の暗い船出
- 67 連載(クロスアツツ)丹羽俊介(「東海大期社長」)―「脱葛西」とリニアという難問
- 68 連載(企業研究)味の素
- 72 ■値上げラッシュで「ぼろ儲け」
- 72 トヨタ「社長交代」のなぜ今―豊田家と豊田の「私的な事情」
- 74 経済●情報カプセル
- 78 連載(地方金融の研究)岩手銀行―川徳「私的整理」の深刻余波
- 80 日本取引所「清田瞭」八年の大罪
- 82 ■東証零落「遅すぎた退任
- 82 デンソー「下請けイジメ」の悪辣―一向に治らぬ「トヨタの体質」
- 84 エーザイ「認知症新薬」の不安―その効果と安全性に「疑念」あり
- 86 ゼロゼロ融資「不良債権化」の災厄―返済開始で露呈する「悪行」の数々

生活必需品の値上げを容赦なく連発。それで業績予想は「上方修正」。過去最高益の更新に、「超過利潤では」との指摘も。庶民の苦境をよそに、経営努力なき価格の釣り上げはさらに続くというから罪深い。(68頁)

